

消防団体制の強化 (消防団運営のDX化、分団の施設整備など)

アナ： 「市長が語る2023三島」第17回の今日は、「消防団体制の強化」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 今年度、三島市では消防団体制の強化の一環として、消防団DXアプリを導入すると伺っていますが、一体どのようなものでしょうか。

市長： これは、全消防団員のスマートフォンにアプリをインストールし、火災や風水害の発生時に、このアプリを通じて出動指令を出すことによってより早く団員を招集できるだけでなく、出動状況を正確に把握することができるというものです。

また、アプリで災害現場の位置や画像を確認できるなど、消防団内部における災害情報の共有が容易となり、災害対応の効率化を図ることができます。

さらに、出動報告書や会議資料などがデジタル化され、事務の効率化が図られることで団員の負担軽減にも繋がると考えています。

アナ： すごいアプリですね。

どうしてこのようなアプリを導入することになったのでしょうか。

市長： 火災発生の際は、消防指令センターから発生場所などを知らせるメールが全団員に送信されますが、メールが届かなかったり、気づかないといったことがありますし、管轄分団を書類で確認する必要があるため、誤って管轄外の火災に出動するケースもございました。

また、風水害の際は、消防団内部での無線連絡をもとに、それぞれが災害発生場所を紙の地図で確認するため、情報の共有が不十分となる可能性もございました。

消防団アプリの導入によって、出動指令は、マナーモードであっても音が出るようになりますし、火災発生場所の管轄分団も表示できるようになるほか、風水害の災害現場の位置や画像を共有することもでき、災害対応力が大きく向上することが期待されます。

アナ： 地域防災の要となる消防団の災害対応力が向上するという一方で、大変心強いですね。

他にも、消防団体制の強化のため、取り組む事業があれば教えてください。

市長： 三島市では、更新計画に基づいて、各分団に配備する消防車両や分団詰所の整備を進めておりますが、今年度は、老朽化が進んでおります笹原新田の第14分団詰所の建設工事を行います。

また、同じく老朽化が進んでいる松本の第18分団詰所について、

新たな詰所の建設用地の検討を行っているところでございます。

アナ： デジタル化というソフト面と、消防施設というハード面の両面で消防団体制の強化に取り組まれていることがよくわかりました。

最後に、何かお伝えしたいことがありましたらお願いします。

市長： **消防団体制の強化において最も重要となるのが消防団員の確保です。**

全国的に団員の減少が続いており、特に若い方の入団が減少していることから、団員の確保が喫緊の課題となっております。とりわけ、火災や大きな災害の際、市民の皆様を守っていただく方々であります。

そこで、本市では、団員の皆様のご苦勞に報いるとともに、団員の確保に繋げるため、昨年度から災害時の出勤報酬を1回あたり2,000円から8,000円へ大幅に増額するなど、消防団員の処遇を大きく改善いたしました。

また、社会経済活動もコロナ禍から落ち着きを取り戻しつつあることもありますので、このラジオをお聞きの皆様にも、この機会にぜひ、消防団に関心を持っていただければ幸いです。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。